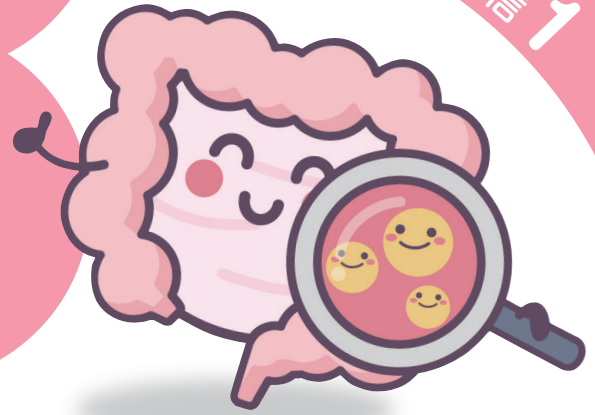


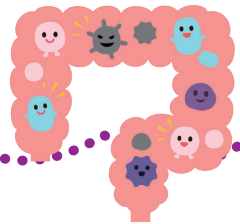
受けましょう！ 大腸がん検診

大腸がんは
増え続けています！



2016年の予測でも
大腸がんの罹患数は
男女計で第1位です。

出典：国立がん研究センター がん情報サービス
「がん登録・統計」2016年のがん統計予測

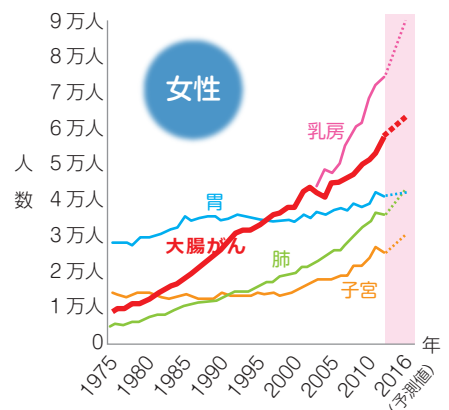
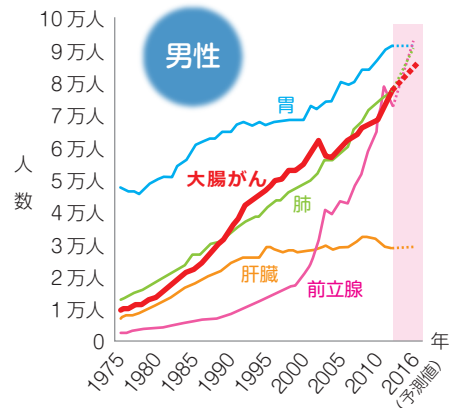
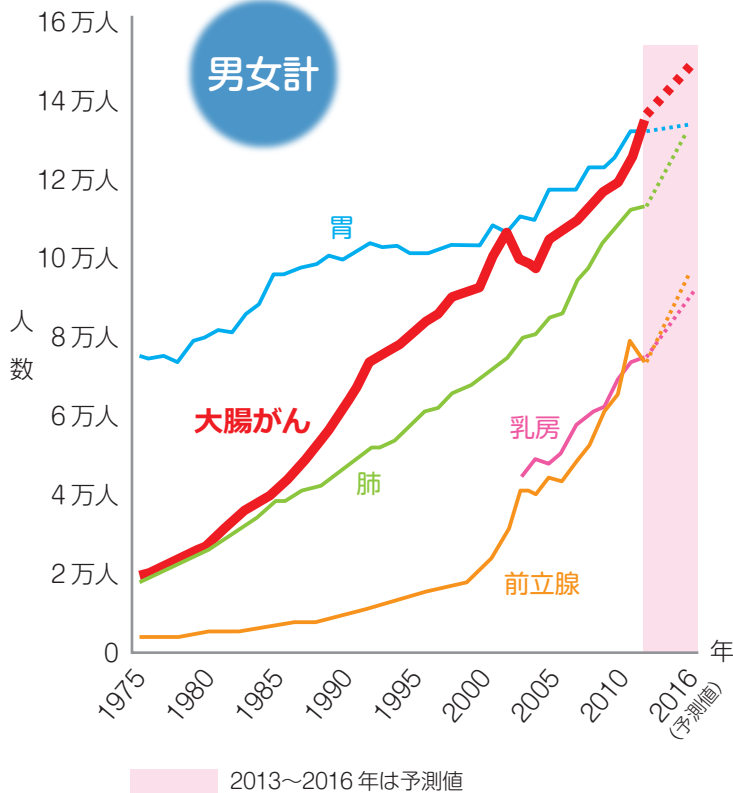


2012年度の
日本人のがん罹患者の内、
大腸がん罹患数は、
男性・女性共に2位、
男女合計では1位でした。

出典：国立がん研究センター がん情報サービス
「がん登録・統計」最新がん統計

がん罹患数：1年間にがんにかかる人の数

がん罹患数推移



早期発見のために大腸がん検診を受けましょう

大腸がんは **早期発見・早期治療** で治ります

早期発見!



全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率

全症例 男女計 (2004~2007年診断例)

大腸がんの臨床病期	例数	割合 (%)	5年相対生存率 (%)
ステージⅠ	4,345	27.2	99.0
ステージⅡ	3,537	22.2	90.9
ステージⅢ	4,417	27.7	81.6
ステージⅣ	3,152	19.8	18.2
不明	498	3.1	83.0
合計	15,949	100.0	75.9

出典：公益財団法人 がん研究振興財団 がんの統計'15 資料編 92 ページより引用

大腸がんの臨床病期とは

ステージⅠ：がんが大腸の壁(固有筋層)にとどまっている(浅め) ステージⅢ：リンパ節転移あり
ステージⅡ：がんが大腸の壁(固有筋層)外まで浸潤(深め) ステージⅣ：他の臓器に転移あり

大腸がんの症状には、
出血・腹痛・便が細くなる・便の回数が増えた、などがあります。
こうした症状が続くときは医療機関を受診しましょう。
しかし、

**早期の大腸がんではあまり症状がでません。
自覚症状がなくても大腸がん検診を受けることが大切です。**

毎年受診



5年相対生存率とは

がんと診断された場合に、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標。
がんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、5年後に生存している一般の日本人と比べてどのくらい低いかで表します。100%に近いほど治療で生命を救えるがん、0%に近いほど治療で生命を救い難いがんであることを意味します。